

和の光

宝塚市立西谷中学校



「流れのなかで」

宮澤 章二

聞けるときに聞いておかないと 決して聞けないコトバがある
言えるときに言っておかないと 再び言えないコトバがある
つかめるときにつかんでおかないと 死ぬまで無縁の宝がある
みがけるときにみがいておかないと 光らぬまま朽ちて行く宝がある
得たものを失うその数よりも得られずに失われたものたちの数の多さ
わずかの知恵とわずかの努力でそれらに触れ得たかも知れないのに
新春の光がなでる新しい日記は最初の頁から最後の頁まで純白
記せるときに記しておかないと二度とは記せない記録がある

この詩は宮澤章二氏の「風鈴抄」という詩集に収められた「流れのなかで」という詩です。「後悔」という言葉があります。こうしておけば良かったのに…、ああしなければ良かったのに…と後になって反省することです。

私自身、この「後悔」のない人生を送るとするのはとても難しいことのように思いますが、みなさんはどう思いますか。テストのたびにこの言葉に出会っている人、結構多いのではないのでしょうか。

でも、この詩の中に、あるヒントが隠されているように思うのです。

「あの時も少しきちんと聞いておけば良かった…」

「あの時ちゃんと話しておけば良かった…」

「あの時チャレンジしておけば、もっと、自信につながったのに…」

みんな「後悔」には「あの時こうしておけば良かった」という「あの時」という言葉がくっついていきます。この「あの時」っていったい、いつなのでしょう。実は、この「あの時」というチャンス逃さないことこそが、後悔しない人生を送る一番のポイントだと思います。

そうは言っても、これってすごく難しいですね。だって、その時気づかずに、後になって気づくのが後悔というものなのですから。いつチャンスが来るかわからない……とすれば、「今がチャンス」と、「今」を常に意識することを大切にしてみたらどうでしょう。後悔しないためには「あの時」である「今」を頑張ることしかないように思います。「後悔」を創り出さない「今」というチャンスを大切にする生活です。

まもなく3学期も最終月となります。また、3年生にとっては、義務教育最後のしめくりである卒業式を間もなく迎えます。「今」を大切にして、有終の美を飾って欲しいと願っています。

校長 筒井 啓介

省略

■写真で振り返る1年間「陸上競技部・女子ソフトテニス部」



練習の様子（陸上競技部）

練習の様子（女子ソフトテニス部）

陸上競技部はA君（部長）とB君（副部長）を中心に、各自が目標を立てて日々の練習に取り組んできました。記録を1秒、1cm伸ばすためには並大抵のことではないですが、暑さ寒さに負けず練習に励みました。3年生が卒業しても、先輩から学んだことを後輩たちがしっかりと引き継いでいってほしいと期待しています。

女子ソフトテニス部はCさん（部長）、Dさん（副部長）、Eさん（副部長）を中心にチームが一丸となって日々の練習を積み重ねて、市内大会をはじめ阪神大会や県大会で活躍してきました。3年生から学んだことを1・2年生が受け継ぎ、今後も様々な大会で活躍してくれることと期待しています。